

SOWA 医療法人社団 相和会 広報誌 ホームページ <http://www.sowa.or.jp/>

2017年 新春 第27号

新年明けまして  
おめでとうございます

相和会 広報誌【なごみ】が完成致しました。各部署にて当会の今後の方向性を再確認し、また一年力を合わせて頑張っていきましょう！

新年明けましておめでとうございます。

昨年は2025年に向かい、全国で地域医療構想会議が持たれ、それぞれの地域でこれからの医療に対する体制作りが始まりました。関東一都三県・大阪府のみが、病床の増加が見込まれ、その他の地域はすべて病床削減の方向にシフトしました。

相模原の必要病床はかなりの欠乏が見込まれ、病床数の整備調整を行って行くことになります。また、在宅への対応疾患別弱点の強化を合わせて力を入れていくことになり、行政には医療・介護従事者の育成に真剣に取り組んで頂かなくてはなりません。介護は地域医療構想を見据え地域ケアシステムの構築準備が少しずつ進むことになり、さらなる医療と介護の密接な連携が必要になります。

一方保健では生活習慣改善による医療費削減が急務であり、各健保の努力と成果に対する差別化や効率的な健診のあり方の再検討が始まります。大きな変革の波が医療・介護・保健に押し寄せることになり、会をあげて対応していく所存です。

今年もよろしくお願ひ致します。

## 年頭ご挨拶



医療法人社団相和会  
理事長・本部長  
洲野辺総合病院  
病院長 土屋 敦

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

横浜は昨年移転後丸3年が経過しました。ホップ・ステップ・ジャンプとまでは行きませんが、何とか軌道に乗った感があります。これは、「神奈川一の健診センターを目指す」という目標に全職員がベクトルを合わせ、一人一人が何をすべきか考え邁進してきた結果です。

医療サービスの質を評価しようとする試みは、E. Codman(1914)が主として外科手術の結果に着目して End Result System の概念を提唱しています。また、A. Donabedian(1966)は構造(structure)、過程(process)、結果(outcome)の3つの視点から評価されるべきであると提唱し、この考え方は現在も広く用いられています。

移転前には「うちは process は良いのだけれど、今の structure ではどう転んでも太刀打ちできない」とずっと思っていました。そして現在、structure が飛躍的に良くなり、実は process も自慢できるほどのことはなかったのではないかと思います。

本年は優れた構造(structure)に見合う過程(process)を極め、さらに結果(outcome)を求めていこうと思います。本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。



医療法人社団相和会  
副理事長・副本部長  
横浜ソーククリニック 院長  
横浜総合健診センターセンター長  
高橋 直樹

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、熊本における大震災の発生、また台風による多くの自然災害、そして、東京の小池新都知事就任が決定、また、世界ではフィリピンでの新大統領就任やアメリカ合衆国における次期大統領の就任決定など様々な動きがあった一年でもありました。

さて、当クリニックで稼働する健診センターも、皆様の御協力、御支援をいただきながら本年3月10日で丸3年を迎えます。

おかげさまで巡回健診は、もちろんのこと、施設健診におきましても順調に受診者が増え、巡回健診当日の未受診者の方、また近隣における事業所様からの問い合わせの中で、御利用をいただいております。当時は、ゼロよりスタートいたしました但昨年度には、3700名を実施、この28年度は計画として4500名様の実施を見込んでおります。

また、本年度6月には、最新型の胸部胃部併用X線デジタル車も導入し、無事に旧型車と入れ替えを実行できたことにより、契約事業所先における効率的な運用実施も進んでおります。

本年も当センター職員一同、鋭意努力し前進していく所存でございますので、何卒御協力、御理解のほど宜しくお願ひ申し上げます。



医療法人社団相和会  
ソーク健診クリニック  
産業健診センター  
院長 松田 實

## 新春夢想

昨年は自然災害が多発した上に、Brexit や米国大統領選など予想もしなかったようなことが起きて、この先どうなるのだろうと不安に駆られることの多い1年だった。こんな状況だからこそ、目先の変化にとらわれず、自分たちが一番大事だと思うことに目を向けて、力を蓄えるべきときなのかもしれない。

政府や専門家が用意してくれる仕事を真面目にこなして行けば、将来の展望が開かれるという保証はどこにもないような気がしてくる。自分たちが働き、生活する場所がこの先十年、二十年でどんな方向に向かえば、みんなの幸せや生きがいに繋がるのか、世代を越えて自由な議論を交わすことができれば、少しは先が見えてくるのかもしれない。



医療法人社団相和会  
ソーワ町田クリニック  
院長 別府 宏樹

新年明けましておめでとうございます。旧年中は皆様に大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

現在行われております特定健診、特定保健指導は、明年平成 30 年から第 3 期の実施期間を迎えます。そのための準備として、現在、厚労省において実施方針の検討が行われております。健診項目の見直し等で大きな変更はなさそうですが、今年中に実施要項が決定されるものと思います。進む高齢者人口増加に対し、疾病を予防し健康を確保するとともに、急増する医療費を抑制することを目的としてこの制度が開始され、ちょうど 10 年を迎えます。その本当の成果を検討するには開始から 30 年程度の実績の蓄積が必要になると思います。当相和会の予防医学・健診部門としても、データを蓄積して参りたいと考えます。

一方、これからの人間ドックは、個々の受診者の状態をよく把握し、その身体・精神状況に即した、より効果的なオーダーメイドの健診項目の設定が必要とされることとあります。近年の遺伝子検査技術の発達には、少ない侵襲で、単なるスクリーニングのみならず、確定診断を可能とする時代を迎えつつあります。これらの技術の導入も視野に入れ、快適、安全、効果的な健診を築いて参りたいと考えます。

何卒、本年も職員各位のご努力と、近隣医療機関の皆様のご理解を戴きますよう、よろしくお願い致します。

末尾ながら、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



医療法人社団相和会  
相模原総合健診センター  
センター長 小林 伸行

明けましておめでとうございます。皆様、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年、みなとみらいメディカルスクエア (MMS) は開設10周年の節目を迎えます。初心に帰り、MMS の理念の医療の質の高さ (Quality)、迅速性 (Speed)、快適性 (Amenity) をさらに充実させるため企画・業務の改善に取り組んでいきたいと思っております。日本社会は少子化、高齢化、労働力不足と危ない崖淵に立っています。このような時代に、国民の健康を守ることこそ、日本社会を支える重要な柱のひとつです。健診を通じて、日本を少しでも健康に、元気にしていくことに役立ちたいと思っております。今年も職域や職位を越えた協力体制、“One for All, All for One”の精神で 一丸となって頑張る所存です。

本年もご指導とご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



医療法人社団相和会  
みなとみらいメディカルスクエア  
院長 石川 廣記

新年あけましておめでとうございます。

昨年はリオオリンピックが開催され日本中が感動に沸き、その一方で熊本地震による甚大な被害をもたらした、様々な出来事が私たちの心を揺るがす一年でありました。

当施設におきましては、在宅復帰支援加算を算定してから 2 年目を迎え、在宅へ戻られる利用者が増えておりますが、入所率を維持することが難しく課題となっております。

多様化する利用者のニーズを捉え、更なる提供サービスの向上が介護事業者に求められております。その実現には入所率の安定、人材の確保と育成による質の高いケアが必要であり、利用者にとって心の拠り所となる施設にならなければなりません。

また、多くの利用者は近隣の地域にお住まいになられておりますため、相和会事業所間の協力体制を強化していくことで、地域の方々には選ばれる施設を目指してまいりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後に皆様方のご健康とご多幸を心から祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



医療法人社団相和会  
介護老人保健施設  
青葉の郷  
施設長 鈴木 博